

電子入札コアシステム利用者 様

一般財団法人日本建設情報総合センター

平成 26 年度「電子入札コアシステム事業改善方針」の改定について（報告）

平成 23 年 1 月 21 日に策定（平成 25 年 1 月 25 日改定）した「電子入札コアシステム事業改善方針」を改定したので、ご報告いたします。

1. 事業改善方針の実施状況等

(1) 電子入札コアシステム事業改善方針（平成 25 年 1 月 25 日改定）

1) コアシステム機能の充実

強いニーズにかんがみ、検討対象を工事・業務だけでなく物品・役務にまで拡大し、コアシステム機能の大幅な充実を図る。この際、保守等の料金水準を引き上げることのないよう留意する。

2) 処理速度等の性能向上

処理速度遅延の原因、速度改善方法と効果等に関する調査を行い、JAVA 実行環境の見直し等抜本的な性能改善を検討する。

3) 料金体系等

ライセンス料、保守料金については、暗号アルゴリズムの危殆化対応、サポートの充実、コアシステム機能の充実等を図りつつ、現行水準の維持に努めるとともに、収支均衡を目指してコスト削減努力を行う。なお、料金の使途及び収支概要を利用者会議で明示するなど透明性の確保を図る。

また、SaaS 方式が今後主流となることを見越しつつ SLA にも対応し、少額・少数利用の市町村への導入にも配慮した料金体系の追加検討を行う。

※SaaS (Software as a Service) : ソフトウェアの機能のうち、ユーザが必要とするものだけをサービスとして配布し利用できるようにしたソフトウェアの配布形態。

※SLA (Service Level Agreement) : サービス品質保証。

4) 情報セキュリティの強化

昨今、政府機関や国内企業に対するサイバー攻撃や脆弱性を突く攻撃等が巧妙かつ高度化している。コアシステムが開発されてから既に 10 年以上が経過し、情報セキュリティの状況も大きく変化していることから、コアシステムの情報セキュリティの強化・見直しを図る

(2) 事業改善方針の対応状況

1) コアシステム機能の充実

コアシステム V6 の提供に向け、利用団体の要望を基に工事・業務、物品・役務の機能強化に向けた機能改良の項目を選定し、要件定義書の作成を実施した。

2) 処理速度等の性能向上

速度改善方法について検討した結果、コアシステム V6 において、画面遷移時の IC カードアクセス方法の見直しを行うこととした。

3) 料金体系等

SaaS 方式に対応した新しい料金体系及び新サービスの提供については、正会員等と検討した結果、料金設定や新しいサービス提供ができないことが判明した。

これに伴い、小規模利用のお客様の電子入札利用促進、共同利用参加市町村の要望対応、コアシステム開発費用の負担の公平性の確保の観点から料金について検討し対応方法を決定した。

さらなるサポートの充実に向け、なるべく早い段階でコアシステム V6 に移行することで保守対象とするバージョンを減らし保守費用を軽減するため、コアシステム V6 リリース後における現行コアシステムのサポート期間及び提供方法の変更を行うこととした。

4) 情報セキュリティの強化

脆弱性の改善等に向け、Java やブラウザ等の新バージョンの動作確認等の迅速な対応を行った。

また、平成 26 年度に実施された暗号アルゴリズムの移行について、利用団体や民間認証局等との連絡を密にし、各利用団体における暗号アルゴリズム移行対応が滞りなく実施され、円滑に旧暗号と新暗号の混在期間（フェーズ 2）に移行することができた。

(3) 事業改善方針の改定

電子入札コアシステム事業改善方針（平成 27 年 1 月 23 日改定）

1) コアシステム機能の充実

引き続き、平成 28 年 3 月末に予定しているコアシステム V6 のリリースに向けた設計及び開発を行う。

また、利用団体より収集した要望のうち V6 で採用されなかった要望、今後新たに発生する要望等について、V6 後のコアシステムの機能の充実に向け、順次対応を検討する。

2) 処理速度等の性能向上

処理速度の改善方針については、費用対効果を考慮しつつ引き続き実現性等の検討を行う。

3) 料金体系等

小規模利用のお客様の電子入札利用促進、共同利用参加市町村の要望対応、コアシステム開発費用の負担の公平性の確保の観点から以下の対応を行う。

- ① 少額利用特例料金に、新たな料金区分を設ける。（H27 対応）
- ② JACIC が共同利用参加市町村から直接問合せを受けるサービスを平成 27 年度に試行する。（H27 対応）
- ③ V6 で電子入札コアシステムを初めて利用されるお客様を対象とした新たな料金を設ける。（H28 対応）

また、コアシステム V6 リリース後の料金について、引き続き、保守業務の効率化による保守費用の縮減とともに、電子入札コアシステムサービス開始時からの経緯や電子入札コアシステム利用状況の変化を踏まえ、機能と負担の関係やお客様間の負担の公平性等の観点から総合的な検討を行う。

4) 情報セキュリティ対応

セキュリティ対応について、随時、調査・検討・動作確認等を実施し、コアシステムの安定稼働のために利用団体への情報提供を実施する。

また、暗号アルゴリズム移行について、新暗号への完全切り替え（フェーズ 3）に向け、サポートを継続していく。

事業改善方針及び対応状況一覧

項目	事業改善方針(H25.1.25改定)	事業改善方針(対応状況) 平成26年度	事業改善方針(H27.1.23改定)
1) コアシステム機能の充実	<p>強いニーズにかんがみ、検討対象を工事・業務だけでなく物品・役務にまで拡大し、コアシステム機能の大幅な充実を図る。</p> <p>この際、保守等の料金水準を引き上げることのないよう留意する。</p>	<p>コアシステムV6の提供に向け、利用団体の要望を基に工事・業務、物品・役務の機能強化に向けた機能改良の項目を選定し、要件定義書の作成を実施した。</p>	<p>引き続き、平成28年3月末に予定しているコアシステムV6のリリースに向けた設計及び開発を行う。</p> <p>また、利用団体より収集した要望のうちV6で採用されなかった要望、今後新たに発生する要望等について、V6後のコアシステムの機能の充実に向け、順次対応を検討する。</p>
2) 処理速度等の性能向上	<p>処理速度遅延の原因、速度改善方法と効果等に関する調査を行い、JAVA実行環境の見直し等抜本的な性能改善を検討する。</p>	<p>速度改善方法について検討した結果、コアシステムV6において、画面遷移時のICカードアクセス方法の見直しを行うこととした。</p>	<p>処理速度の改善方針については、費用対効果を考慮しつつ引き続き実現性等の検討を行う。</p>
3) 料金体系等	<p>ライセンス料、保守料金については、暗号アルゴリズムの危殆化対応、サポートの充実、コアシステム機能の充実等を図りつつ、現行水準の維持に努めるとともに、収支均衡を目指してコスト削減努力を行う。</p> <p>なお、料金の使途及び収支概要を利用者会議で明示するなど透明性の確保を図る。</p> <p>また、SaaS方式が今後主流となることを見越しつつSLAにも対応し、少額・少数利用の市町村への導入にも配慮した料金体系の追加検討を行う。</p>	<p>SaaS方式に対応した新しい料金体系及び新サービスの提供については、正会員等と検討した結果、料金設定や新しいサービス提供ができないことが判明した。</p> <p>これに伴い、小規模利用のお客様の電子入札利用促進、共同利用参加市町村の要望対応、コアシステム開発費用の負担の公平性の確保の観点から料金について検討し対応方法を決定した。</p> <p>さらなるサポートの充実に向け、なるべく早い段階でコアシステムV6に移行することで保守対象とするバージョンを減らし保守費用を軽減するため、コアシステムV6リリース後における現行コアシステムのサポート期間及び提供方法の変更を行うこととした。</p>	<p>小規模利用のお客様の電子入札利用促進、共同利用参加市町村の要望対応、コアシステム開発費用の負担の公平性の確保の観点から以下の対応を行う。</p> <p>①少額利用特例料金に、新たな料金区分を設ける。(H27対応)</p> <p>②JACICが共同利用参加市町村から直接問合せを受けるサービスを平成27年度に試行する。(H27対応)</p> <p>③V6で電子入札コアシステムを初めて利用されるお客様を対象とした新たな料金を設ける。(H28対応)</p> <p>また、コアシステムV6リリース後の料金について、引き続き、保守業務の効率化による保守費用の縮減とともに、電子入札コアシステムサービス開始時からの経緯や電子入札コアシステム利用状況の変化を踏まえ、機能と負担の関係やお客様間の負担の公平性等の観点から総合的な検討を行う。</p>
4) 情報セキュリティの強化	<p>昨今、政府機関や国内企業に対するサイバー攻撃や脆弱性を突く攻撃等が巧妙かつ高度化している。コアシステムが開発されてから既に10年以上が経過し、情報セキュリティの状況も大きく変化していることから、コアシステムの情報セキュリティの強化・見直しを図る</p>	<p>脆弱性の改善等に向け、Javaやブラウザ等の新バージョンの動作確認等の迅速な対応を行った。</p> <p>また、平成26年度に実施された暗号アルゴリズムの移行について、利用団体や民間認証局等との連絡を密にし、各利用団体における暗号アルゴリズム移行対応が滞りなく実施され、円滑に旧暗号と新暗号の混在期間(フェーズ2)に移行することができた。</p>	<p>セキュリティ対応について、随時、調査・検討・動作確認等を実施し、コアシステムの安定稼働のために利用団体への情報提供を実施する。</p> <p>また、暗号アルゴリズム移行について、新暗号への完全切り替え(フェーズ3)に向け、サポートを継続していく。</p>